

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03345

研究課題名(和文)「信頼」概念に関する国際比較研究：応用倫理・実験哲学的アプローチ

研究課題名(英文)The international examination of the idea of "Trust" : an applied philosophical approach

研究代表者

水谷 雅彦 (Mizutani, Masahiko)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：50200001

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代社会において「信頼 trust」が果たす役割について、哲学・倫理学・心理学等の複数領域の立場から横断的に検討を行ない、よりよい信頼理解が現代社会に生きる人々のよき生に向けて果たしうる役割について提言を行った。具体的には、信頼に関する(1)哲学・倫理思想及び社会科学領域の理論的・実証的研究に基づいた規範的検討、(2)アジア圏を中心とした国際的な比較に基づいた記述的検討、(3)上記の知見に基づいた実験哲学的な手法による実証研究を行い、その成果は、関連論文や書籍の出版、また研究会や公開シンポジウムの開催等によって、広く公表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我々は、現実の生活において、家族や友人、医師や弁護士、また企業や行政を信頼して生活しており、もし、まったく他の誰をも信頼しなければ生きていくことはほぼ不可能であるとさえいえる。それでいながら、今までこの信頼概念をめぐる哲学的考察は、極めて限定的にしかなされてこなかった。本研究は、この「信頼」という我々の日常に深くかかわりながらも哲学・倫理学的考察がなされてこなかった概念を、領域横断的に明らかにしながら、この概念をめぐる哲学・倫理学的研究の端緒を開くという、世界的にみても先駆的な意義を持っている。

研究成果の概要(英文)：This research project examined the role of 'Trust' in our present society in philosophical, ethical and psychological point of view. It also indicated that the profound understanding of trust would encourage people living in this society to have a better life. In particular, this project made a) a normative investigation about trust based on philosophical and ethical theory as well as social scientific studies b) a descriptive investigation of it comparing the Japanese idea of trust with that of other Asiatic countries c) an experimental philosophical review considering these two investigations. We released publicly the results from this project through publishing research papers, holding symposium and giving several conference presentations.

研究分野：哲学、倫理学

キーワード：信頼 実験哲学 哲学 倫理学 応用哲学 宗教哲学 実験心理学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「信頼 trust」は、我々の生活において重要な役割を果たしており、程度の差はあれ、我々は家族や友人、医師や弁護士を信頼し、また企業や行政を信頼して生活している。もし、人がまったく他の誰をも信頼しなければ、生きていくことはほぼ不可能であろう。その一方で、現代社会においては、さまざまなレベルで「不信 distrust」が取り沙汰されてもおり、匿名性の高い都市生活においては、「知らない人は信じない」という態度が賢明なものとして推奨されるのと同時に、昨今の企業の不正(たとえば粉飾決算やデータ捏造)や行政の汚職などが、組織に対する不信を生み出すものとして、世間の耳目を集めることもしばしばである。また、学术界においても、相次ぐ研究不正の発覚による科学者コミュニティへの不信という事態を指摘することは難しいことではないだろう。また、他方で、B. Williams (1988)によって、信頼を含む協調行動は文化・歴史依存性を持つことが指摘され、また A. Baier (1986)によって、信頼は徳倫理と結びつけられているように、そもそも信頼という概念は、異文化によって異なったものである可能性も指摘されている。このように、信頼という概念は、現代社会において深く人々の生活に関わりながら、様々な形をとって現れ出るといって、現実的な重要性を持っている。しかしながら、この概念が、俯瞰的な視点から哲学的に検討されることはほとんどなかった。本研究における根本的な着想は、以上のような、信頼をめぐる、現実的重要性と学問的未成熟さの間にある大きなギャップを背景としている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代社会において「信頼」が果たす役割について、哲学・倫理学・心理学等の複数領域の立場から横断的に検討を行い、現代社会における信頼の意義を明確化するとともに、信頼概念についてのよりよい理解が現代社会に生きる人々のよき生に向けて果たしうる役割を提言することである。以上の目的を達成するために、(1)従来、信頼の概念分析、または、信頼の持つ社会的機能のいずれかの文脈でのみ語られることの多かった信頼概念を包括的に理解するために、信頼に関する哲学・倫理思想及び社会科学領域の理論的・実証的研究を吟味し、次に、(2) 信頼理解は文化的な背景によって異なる可能性があるため、アジア圏を中心に国際比較研究を行い、信頼概念の普遍性と多元性を明確にし、さらに、(3) 上記の知見に基づき、実験哲学的な手法で信頼についての実証研究を行った。

3. 研究の方法

本研究では先に記した目標を達成するために、全体を便宜的に以下の三グループに分けた。すなわち、1)信頼概念およびそれに関連する概念(信頼に値する trustworthy、安心、信仰、不信など)に関する先行研究のサーベイを実施するグループ、2)これまで研究代表者および研究分担者らが培ってきた国際的な研究ネットワークを活用し、信頼に関する他国の研究動向を調査し、この概念の普遍性と多元性を解明するよう努めるグループ。3)上記二つの研究を十分に踏まえた上で、信頼概念等に関して理論的に問題となる諸点について、実験哲学の手法で実証研究を行い、そこで得られた知見を再度理論的見地から総合的な検討および提言を行うグループ、の三つである。

本研究では、このグループで研究を進めると同時に、グループ間での情報交換および相互討論を通じて共同研究としての統合性をも確保し、また、研究の深化と幅広さの確保を目的として、外部から研究者を招聘し、知識提供や討論の機会を定期的に設けた。

4. 研究成果

本研究は、信頼という概念をめぐる、現実的重要性と学問的未成熟さの間にある大きなギャップを背景とし、現代社会において「信頼」が果たす役割について、哲学・倫理学・心理学等の複数領域の立場から横断的に検討を行い、現代社会における信頼の意義を明確化するとともに、よりよい信頼理解が現代社会に生きる人々のよき生に向けて果たしうる役割を提言することを目的とし、上述の三つの研究グループに分かれて、効率的にかつ統合された形で研究が遂行された。その結果、「ロボット、信頼、不信」(笠木雅史、第36回日本ロボット学会学術講演会、2018年)、「不安と信頼から考えるロボットの価値」(小宮虎、第37回日本ロボット学会学術講演会)といった学会発表、『信頼を考える：リヴァイアサンから人工知能まで』(小山虎編、2018年、勁草書房)、『東アジア・キリスト教研究とその射程：無教会キリスト教を中心に』(芦名定道著、2019年、三恵社)、『今日、僕の家にロボットが来た。：未来に安心をもたらすロボット幸学との出会い』(小山虎、笠木雅史 他著、2019年、北大路書房)といった書籍の出版、更には、信頼概念に関して卓越した知見を持ち合わせた、倫理学者と社会心理学者の二名の研究者を招聘した公開シンポジウム、「失われた信頼はどうしたら回復できるのか：信頼概念への学際的アプローチ」(2019年3月@京都大学)の開催によって、信頼という概念をめぐる諸問題に関して、識者だけでなく一般市民にむけて情報発信を行い、また、一般市民と意見交換を行うことに成功した。このように、本研究は、以上のような成果を通じて、広く社会に対して信頼概念に関する検討結果を公開するこ

とができた。

<文献>

Baier, Annette C. (1986) "Trust and Antitrust." *Ethics* 96.2: 231–260.

Hardin, Russell. (2006) *Trust. Key Concepts in the Social Sciences*. Cambridge, UK: Polity.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Ohtaka Mizuka, Karasawa Kaori	4. 巻 58
2. 論文標題 Perspective-taking in families based on the social relations model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 THE JAPANESE JOURNAL OF EXPERIMENTAL SOCIAL PSYCHOLOGY	6. 最初と最後の頁 111-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.2130/jjesp.1810	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Tado'oka Yoshika, Higuchi Osamu, Karasawa Kaori	4. 巻 89
2. 論文標題 The effect of stereotype suppression on negative thoughts about food products	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japanese journal of psychology	6. 最初と最後の頁 22-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4992/jjpsy.89.16039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Shiraiwa Yuko, Karasawa Kaori	4. 巻 16
2. 論文標題 The significance of the autopsy imaging (Ai) in Japanese corpse examination	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4189/shes.16.25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 伊勢田哲治	4. 巻 44
2. 論文標題 人と動物のあるべき関係とは---動物福祉の考え方を深化させる---	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 静岡実験動物研究会会報	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 児玉聡	4. 巻 83(3)
2. 論文標題 公衆衛生における実践倫理--公衆衛生の倫理学とその諸課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 172-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠木雅史	4. 巻 RSJ2018AC3E1-06
2. 論文標題 ロボット、信頼、不信頼	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第36回日本ロボット学会学術講演会予稿集	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki ITAI, Akira INOUE ,Satoshi KODAMA	4. 巻 Vol. 37(1)
2. 論文標題 Rethinking Nudge: Libertarian Paternalism and Classical Utilitarianism	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Tocqueville Review/La Revue Tocqueville	6. 最初と最後の頁 81-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中美穂・児玉聡	4. 巻 Vol. 26
2. 論文標題 川崎協同病院事件判決・決定に関する評釈の論点整理	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 107-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊勢田哲治	4. 巻 第13号
2. 論文標題 フォード・ピント事件をどう教えるべきか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 技術倫理研究	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto, T., & Karasawa, K.	4. 巻 10
2. 論文標題 When and by whom are apologies considered? The effects of relationship and victim/observer standing on Japanese people's forgiveness	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 nterpersona: An International Journal on Personal Relationships	6. 最初と最後の頁 171-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白岩祐子・小林麻衣子・唐沢かおり	4. 巻 32
2. 論文標題 「知ること」に対する遺族の要望と 充足：被害者参加制度は機能しているか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会心理学研究	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanibe, T., Shiraiwa, Y., & Karasawa, K	4. 巻 14
2. 論文標題 Opposition to popular legal participation and the reason-emotion framework: Empirical research on citizens' attitudes toward the lay judge system in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山虎	4. 巻 第34巻
2. 論文標題 ロボットシステムの『正しい』動作と合目的性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本ロボット学会誌	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦名定道	4. 巻 第13号
2. 論文標題 南原繁の政治哲学とその射程	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本哲学史研究	6. 最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芦名定道	4. 巻 第5号
2. 論文標題 現代日本における宗教哲学の構築をめざして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 キリスト教学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芦名定道	4. 巻 第15号
2. 論文標題 東アジア・キリスト教研究の可能性 現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア・キリスト教・多元性	6. 最初と最後の頁 169-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yu Izumi, Masashi Kasaki, Yan Zhou, Sobei H. Oda	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Definite Descriptions and the Alleged East-West Variation in Judgments about Reference	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Philosophical Studies	6. 最初と最後の頁 ---
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 福本都・橋本剛明・唐沢かおり
2. 発表標題 争いの被害者のパーソナリティと赦し: 視点取得の効果に着目して
3. 学会等名 日本社会心理学会第59回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芦名定道
2. 発表標題 現代日本における殉教論と歴史的記憶
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児玉聡
2. 発表標題 学際的知の協創としての生命倫理学
3. 学会等名 日本生命倫理学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuo Deguchi
2. 発表標題 Entrustment and Distribution of Somatic Agency: An Observation on Self
3. 学会等名 Kyoto & UCSD joint workshop on self (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tora Koyama
2. 発表標題 Interdisciplinary Studies on Human-Robot Trust for Safety
3. 学会等名 IEEE International Conference on Intelligence and Safety for Robotics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小山 虎
2. 発表標題 信頼研究の多様性を分析する
3. 学会等名 「インタラクションと信頼」シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masashi Kasaki
2. 発表標題 What is It (like) to Trust a Machine
3. 学会等名 Workshop in Philosophy of Technology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児玉 聡
2. 発表標題 ヒト胚へのゲノム編集技術：臨床利用の是非
3. 学会等名 生命倫理学会公募ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoshi Kodama
2. 発表標題 A Short Report of the End-of-life
3. 学会等名 Bristol-Kyoto Workshop on Ageing, Health & Ethics（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 齋藤真由・白岩祐子・唐沢かおり
2. 発表標題 裁判員裁判に対する認知が参加意欲へ及ぼす影響
3. 学会等名 日本社会心理学会第57回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田戸岡好香・樋口収・唐沢かおり
2. 発表標題 福島県産食品の風評被害に抑制が及ぼす影響
3. 学会等名 日本社会心理学会第57回大会
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Karasawa, K.
2 . 発表標題 Judgment bias in social psychology
3 . 学会等名 3rd Taiwan- Japan Workshop on Computational Aesthetics (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Tado ' oka, Y., Ishii, K., Kato, J., & Karasawa, K.
2 . 発表標題 The effects of the growth mindset on two types of envy toward carrier women
3 . 学会等名 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Tanibe, T., & Karasawa, K.
2 . 発表標題 Self-effacement in human-computer interaction: Social responses toward computers in Japan
3 . 学会等名 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 H. Osawa, A. Ema, H. Hattori, N. Akiya, N. Kanzaki, A. Kubo, T. Koyama, and R. Ichise
2 . 発表標題 What is Real Risk and Benefit on Work with Robots? From the Analysis of a Robot Hotel
3 . 学会等名 the 2017 ACM/IEEE International Conference on Human-Robot Interaction (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 S. Nishiguchi, T. Koyama, and H. Ishiguro
2. 発表標題 Error Handling System for Humanoid Robots
3. 学会等名 the 3rd International Symposium on Cognitive Neuroscience Robotics (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tora Koyama
2. 発表標題 From Moral Robots to Trustworthy Robots
3. 学会等名 Akita International University 2016 Hackathon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小山虎
2. 発表標題 社会ロボットの倫理的問題にどのように取り組むべきか
3. 学会等名 第34回日本ロボット学会学術講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tora Koyama
2. 発表標題 Ethical Issues for Social Robots and the Trust-based Approach
3. 学会等名 the 2016 IEEE International Workshop on Advanced Robotics and Its Social Impacts (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 芦名定道
2. 発表標題 脳科学と宗教倫理の接点を探る
3. 学会等名 宗教倫理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 芦名定道
2. 発表標題 東アジアキリスト教交流史研究の地平 現状と課題の分析より
3. 学会等名 東アジアキリスト教交流史研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Deguchi Yasuo
2. 発表標題 The Structure of Shamelessness: A View from Fukushima
3. 学会等名 2nd East-West Philosophy Forum: Humility, Faith and Science in the Eastern and Western Traditions（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 笠木雅史
2. 発表標題 日出る国の住人は本当に記述説支持者なのか？
3. 学会等名 第8回応用哲学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masashi Kasaki, Hiroko Kamide, Takashi Ikeda
2. 発表標題 Individual Knowledge and Common Knowledge in Japanese
3. 学会等名 International Conference on Ethno-Epistemology - Culture, Language, and Methodology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 笠木雅史
2. 発表標題 実験哲学の現状と課題
3. 学会等名 第2回発達認知神経科学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 伊勢田 哲治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 科学哲学の源流をたどる	

1. 著者名 芦名 定道	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 129
3. 書名 東アジア・キリスト教研究とその射程 無教会キリスト教を中心に	

1. 著者名 ミツヨ・ワダ・マルシアーノ、出口康夫他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 378(113-137)
3. 書名 ポスト3.11 メディア言説再考	

1. 著者名 小山 虎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 372
3. 書名 信頼を考える	

1. 著者名 児玉 聡	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 412(17-29, 289-309)
3. 書名 入門・医療倫理I 改訂版	

1. 著者名 児玉 聡	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 203(150-158)
3. 書名 哲学トレーニング2	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	芦名 定道 (Ashina Sadamichi) (20201890)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	出口 康夫 (Deguchi Yasuo) (20314073)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	海田 大輔 (Kaida Daisuke) (40649133)	京都大学・文学研究科・講師 (14301)	
研究分担者	唐沢 かおり (Karasawa Kaori) (50249348)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	笠木 雅史 (Kasaki Masashi) (60713576)	名古屋大学・教養教育院・特任准教授 (13901)	
研究分担者	伊勢田 哲治 (Iseda Tetsuji) (80324367)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	児玉 聡 (Kodama Satoshi) (80372366)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	小山 虎 (Koyama Tora) (80600519)	山口大学・時間学研究所・講師(テニユアトラック) (15501)	

